

研究題目（研究課題）

保護者OBが核となって企画・運営する「サマースクール」

～ 岐阜小コミュニティ・スクール「学び部会」の実践の記録 ～



目 次

- I はじめに
- II 研究の構想
- III 実践の概要
- IV 研究の成果と課題
- V おわりに

岐阜県岐阜市立岐阜小学校 校長 藤田 忠久

I はじめに

岐阜市の中心部には、清流長良川が流れ、緑豊かな金華山がそびえ、自然に溢れている。また、1300年の歴史を誇る長良川鵜飼や、織田信長公ゆかりの岐阜城など、歴史の街としても知られている。岐阜小学校はまさに信長公が美濃国を攻略して「岐阜」と改めた城下町を校区としてきた金華小学校と、新市庁舎・警察署・消防署・裁判所等が立ち並ぶ官公街を校区とする京町小学校の二つの伝統校が統合し、平成20年度に開校した学校である。

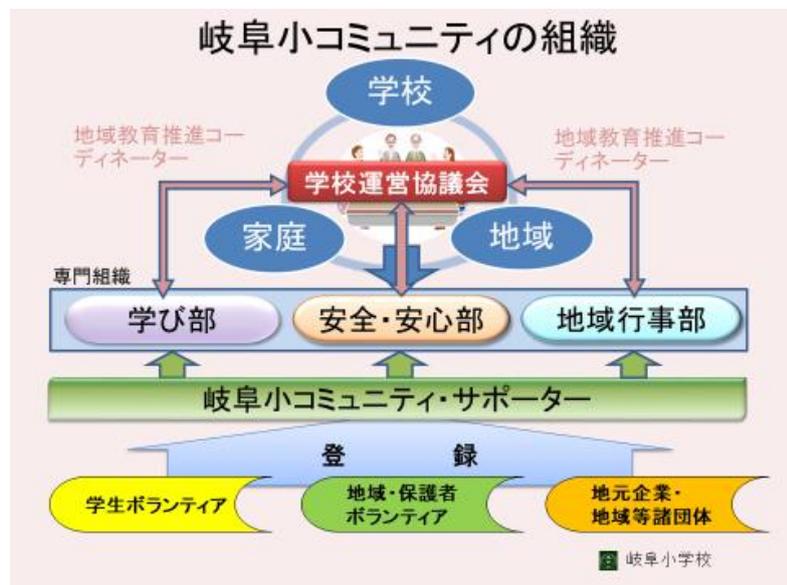
開校以来、岐阜市最初のコミュニティ・スクール（以下CS）に指定され、文部科学省の研究指定事業として「地域や家庭との連携・協働教育プログラム」を開発し、「ふるさと大好き」を合い言葉に先駆的な実践を進めてきた。学校活性化を目指した導入当初の「学校支援・地域活用型」から、「学校支援・地域参加型」を経て、持続可能な地域づくりへと向かう「地域創造型」の学校へと進化してきたところである。

ここでは、最も象徴的な活動と言える2019年度（平成31～令和元年度）の「学び部」の取組を、「サマースクール」（夏休みの講座）を中心に紹介することとしたい。



II 研究の構想

岐阜小CSは、学校運営協議会の下に「学び部」「安全・安心部」「地域行事部」の三つの専門部を設けている。その中で「学び部」は、授業（学校の教育課程内）へのコミュニティ・ティーチャー（地域の外部講師、以下CT）の参加・協力のための連絡・調整の他に、月に一度の朝活動（日課に位置付く教育課程外）での「読み聞かせ」活動、年に2～3回の放課後遊びを中心とした「ふるさとスクール」、そして、夏休みの講座「サマースクール」の企画・運営などを行っている。開校以来続いている「サマースクール」における「学び部」の役割は、各講座におけるCTの依頼から、児童の申込の受付、担当者の割り振り、当日の受付や司会など、大変多岐にわたっている。



「ふるさとスクール」、そして、夏休みの講座「サマースクール」の企画・運営などを行っている。開校以来続いている「サマースクール」における「学び部」の役割は、各講座におけるCTの依頼から、児童の申込の受付、担当者の割り振り、当日の受付や司会など、大変多岐にわたっている。

全国的に「学校における働き方改革」が進められることになった平成30年度には、岐阜市でも夏季休業中に連続16日間の「学校閉庁期間」を設ける「教職員サポートプラン」が実施されることになった。平成30年度の「学び部」による「サマースクール」の振り返りの記録には、次のような意見が残っている。

- ・ 児童数の減少、保護者の考え方の変化に伴い、申込が減る傾向にある。
- ・ 学校閉庁との兼ね合いで、開設日時の設定も厳しくなっている。
- ・ 先生たちに負担はかけられない。
- ・ 楽しみにしている子供は多いので、今後も継続したい。
- ・ 地域の人材で企画・運営をこなすことができる。

また、節目の「開校10周年記念」を機に、平成30年度には岐阜小学校運営協議会の会長が地域代表（前連合自治会長）から元PTA会長へと若返り、2019年度（平成31年度）には「学び部」の構成メンバーも半数近くが入れ替わって、新しい部長やサマースクールの担当者（係長）も含め、元PTA役員や現役の保護者が多数を占めるようになった。新「学び部」の掲げた活動目標は「遊ぼう。学ぼう！学校へ行こう！」で、重点課題を「4本柱『読み聞かせ』『サマースクール』『ふるさとスクール』『授業支援』の充実と変革」とされた。これまで培ってきた10年の成果の継続・発展（これまでの10年、これからの10年！）、保護者、保護者OB、地域の方々など、参画メンバーの充実・拡大（誰でも参加、みんなで参画！）を目指すことになったのである。特に「サマースクール」は、前年度の7講座から12講座へと大きく広げることになった。

この取組について、次のような実践研究として、足跡を残そうと考えたのである。

1 研究主題 「保護者OBが核となって企画・運営する『サマースクール』 ～ 岐阜小コミュニティ・スクール『学び部』の実践の記録 ～

2 研究仮説

保護者OBという世代の小学校への積極的な関わり、学校職員を当てにしない地域住民による企画・運営による「サマースクール」（夏休み中の様々な体験活動）では、学校の教育活動では見られないような子供の学びや育ちが見られる。また、学校という場所（舞台）を提供することで、多くのコミュニケーションやコラボレーションが生まれ、そこに関わる全ての人たちの成長や成就感へと繋がっていくことになる。

3 研究内容

- (1) 子供たち一人一人のニーズに応える開設講座
 - ・ 多種多様な講座を開設し、対象学年を広げたり、定員を増やしたりする。
- (2) 地域の中の人と人との関係を深める企画・運営
 - ・ 子供たちと講師や子供同士だけでなく、スタッフと子供たち、講師を含めたスタッフ（大人）同士の関係性が広がったり、深まったりするようにする。

Ⅲ 実践の概要

1 企画段階における内容検討・日程調整・講師依頼

岐阜小学校運営協議会（岐阜小CS）の活動は、「学び部」による「サマースクール」に限らず、次の3つの視点で計画～実践～反省をすることにしてきている。

- ・ 「ふるさと大好き」を目指した取組として位置付くか。
- ・ 子供の立場に立った（力をつけたり、心を養ったりできる）活動か。
- ・ 誰かに頼ることなく、組織として誰もが主体的に動けるか。

令和元年度も、引き続きこの視点を重視し、計画や準備を進めることとなった。

また、各専門部会での提案や報告については、必ず学校運営協議会で審議され、その会議で活動内容が決定していく体制で動いている。



(1) 第1回 専門部会「学び部」の会議要旨

5月の第1回の部会では、コーディネーターの挨拶、任命書の伝達、部員の自己紹介に続いて、組織案、年間計画案が了承され、各担当者（係長）が事前に考えて来た「今年度の方向」が示された。「サマースクール」については、以下の方向で進めることが決まった。

- ・ 学校閉庁期間以外の、7/22～8/2, 8/19～23の午前中に開設する。
- ・ 学年ごとではなく、できる限り1～6年の枠を取り除いて行う（ただし、そば打ちは4年以上でないと難しいので、1～3年対象の料理教室を考える）。
- ・ 着衣泳をプールでやりたい。
- ・ 学校の先生に頼らず、CS関係者と保護者ボランティア（募集）で運営する。

(2) 第2回 専門部会「学び部」の会議要旨

6月の第2回の部会では、「サマースクール」について担当者（係長）から、開設する講座内容、日時、対象学年、定員、会場、参加（材料）費、講師等の提案がなされ、講座の名称、各講座の担当（責任）者等も話し合われた。前回確認された方向を踏まえ、枠に縛られずに可能性を最大限に引き出すことを目指し、キャッチコピーとして「Infinity」（無限大）を掲げることも確認され、次ページのような講座一覧表にまとめられた。

Infinityサマースクール 2019 参加者募集!

令和元年 6月吉日

みんな集まれ! サマースクールに参加して、講師の先生から学んじよう!

岐阜小学校運営協議会 専門部会
学び部 煎部 直人

***どの講座もお茶、汗拭きタオル、筆記用具、上履きを忘れずに持ってきてね**

講座番号	日時	講座名	対象学年	定員	講座内容	会場	参加費	保護者参加について	講師名	持ち物
1	7月22日(月) 9:00~10:00	落書きしよう	1~6	無制限	自由に落書きします	体育館	無料	可	キャバー・美香さん	汚れても良い服装
2	7月23日(火) 10:00~11:00	Englishで遊ぼう	1~6	無制限	英語を使ってゲームをします	英語ルーム	無料	可	トッド・キャバーさん	
3	7月24日(水) 10:00~11:30	緑のハンギング	4~6	15人	遠花を半円状につないだ可愛い壁掛け	図工室	無料		飯原学園 林 幸子さん	ニッパ、ハサミ 遠花・ドライフラワー はぎれ(あれば)
4	7月25日(木) 9:00~9:45	カンボジアから平和を学ぶ	4~6	無制限	実際のカンボジアの映像や物を通して平和について考えます	英語ルーム	無料	可	岐阜小学校 小林 永治 先生	
5	7月29日(月) 9:30~11:30	水で遊ぼう	1~3	30人	木片で動物を作ろう	図工室	300円	可	倉澤山 サボーターズ 川瀬 健一さん	木工用ボンド (家にある人)
6	7月30日(火) 10:00~11:30	モビールを作ろう	1~3	30人	オリジナルモビールを作ります (ハロウィン)	図工室	無料		手芸愛好家 山田 裕理さん	ハサミ、のり、 トイレットペーパー の芯2~3個
7	7月30日(火) ①9:00~10:00 ②10:00~11:00	飛行機を作って飛ばして遊ぼう	①4~6 ②1~3	①30人 ②30人	簡単なキットで飛行機を作り、出来上がった飛行機を飛ばして遊ぼう	図工室 体育館	①500円 ②100円	可	松枝 秀頼さん 中島 純明さん	
8	7月31日(水) 10:00~12:00	雪花しぼりの手ぬぐいを作ろう	4~6	20人	日本の伝統雪花しぼりを体験	図工室	500円	可	青山 美穂さん	汚れても良い服装
9	7月31日(水) 10:00~12:30	みんなで料理しよう	1~3	35人	オムライス、サラダ、フルーツ白玉	家庭科室	無料		食生活改善推進員の皆さん	エプロン、マスク 三角巾、手拭き 布巾2枚
10	8月1日(木) 10:00~12:30	そば打ち体験	4~6	30人	こねてのばして切って出来たお蕎麦を茹でて食べよう	家庭科室	500円		そばの製料 水野 信さん	エプロン、マスク 三角巾、手拭き 布巾2枚、筥笥
11	8月5日(月) ①10:00~11:00 ②11:00~12:00	命を守る着衣泳	①1~3 ②4~6	①70人 ②70人	水の事故から身を守るため「命を守る着衣泳」を体験しよう	プール	無料	可	赤十字岐阜県支部 水上 安全法指導員 山崎 篤志さん	別紙
12	8月19日(月) 10:00~12:00	夏休み学びの秘密基地(出入り自由)	1~6	無制限	中学生、高校生、教員志望の大学生が分からない問題を個別指導します	コミュニティルーム	無料	可	岐阜小学校卒業の中・高・大学生	勉強道具

2 実際の「サマースクール」の様子

(1) 岐阜小学校ホームページでの紹介

上記の「サマースクール」は、全て予定通りに開催された。その様子は、12講座の各担当者が子供たちの感想を中心に記事と写真をまとめて岐阜小学校ホームページに投稿し、学校側でそれを承認してそのまま掲載することで、以下のように紹介されていた。

① 第1講座「落書きしよう」

7月22日(月)第1回目の『Infinity サマースクール2019』が行われた。第1回の講座は『落書きしよう』である。今回は、人数無制限&当日参加歓迎!ということもあり、約120名!もの子供たちが参加してくれた。体育館中に大きな大きな紙を置いて、さあ、始まり!!赤、青、黄色、ピンク、...自分の好きな色をボウルに入れて受け取ると、後はみんな自分の思うままに!好きなように!手でペタペタ、足でペタペタ。最初は恐る恐るだった子も、手で書いていいの?なんて言っていた子も段々と大胆に!体を使ってゴロゴロ転がって書いている子もいれば、ボウルの絵の具を、花咲かじいさんの様にパシヤー♪パシヤー♪と振りまいている子も!子供たちのキャーッ!楽しいっ!という歓声と共に、何をしてもいいんだ!と、生き生きとした顔は見ているこちらが幸せな気分になった。



② 第2講座「Englishで遊ぼう」



7月23日（火）第2回目の講座は『Englishで遊ぼう』。英語を使ったゲームや歌、バルーンを使った遊びなど、ユーモアあふれる外国の方たちに、子供たちはすっかり引き込まれ、子供たちからも「先生が楽しかった！」「スーパーボールがはねておもしろかった！！」「英語は苦手だけど、楽しもうとすると英語も楽しくなった！」と夢中になって遊んでいた。

③ 第3講座「緑のハンギング」

7月24日（水）第3回目の講座は『緑のハンギング』。子供たちからは、「難しかった。でもすごく楽しかった！」「またやりたい！」「自分なりにうまくできてうれしい！」「いろいろな花をつけてリボンをつけたりして楽しかった！」と感想があった。



④ 第4講座「カンボジアから平和を学ぶ」



7月24日（水）第4回目の講座は、岐阜小学校の小林永治先生による『カンボジアから平和を学ぶ』だった。「先生が分かりやすく話してくれたり、地雷の実物を見せてくれ、カンボジアや平和のことを教えてくれたりして良かった。」「今まで学校はめんどくさいと思っていたけど、行きたくても行けない子供たちがいてありがたいなと思った。」「カンボジアの生活や日本の違いなどが知ることができて良かった。」「地雷はいらない。」「今まで平和がふつうだと思っていたけど、平和がふつうではないことがびっくりしました。」「日本がどれだけ平和で、修復や地雷除去に貢献しているのかがわかった。」「1年生の子も「ぼくが大きくなったらカンボジアにいて、いろんなことをしてくるね。」と感想を書いてくれた。

⑤ 第5講座「木で遊ぼう」

7月29日（月）第5回目の講座は、『木で遊ぼう』を行った。子供たちからは、「自分のありのままのものが作れた」「将来大工さんになりたいので練習になってよかった！」「みんなといっしょに工作して、みんなとのきずながふかまった！」「もっと難しいものに挑戦したい！」と感想があった。



⑥ 第6講座「モビールを作ろう」

7月30日（火）第6回目の講座は『モビールを作ろう』である。子供たちからは「こんなに上手に作れてうれしかった！」「コウモリは少し難しかったけど、とても楽しかったし、かっこよく作れて良かった！」「先生が優しく丁寧に教えてくれたし、すてきな作品が出来たからよかった」「また絶対やりたい！」という声がたくさんあがった。



⑦ 第7講座「飛行機を作って飛ばして遊ぼう」



7月30日（火）第7回目の講座は『飛行機を作って飛ばして遊ぼう』。「ちょっと作るのが難しかったけど、すごく飛んだのでうれしかった！」「家でも飛ばしたい！」「先生たちがとても詳しく教えてくれたので上手に作ることが出来ました」「ひこうきがいっぱいとんでうれしかった！」などの感想があった。自分でものを作り、作ったもので遊ぶ楽しさは格別だね。

⑧ 第8講座「雪花しぼりの手ぬぐいをつくろう」

7月31日（水）第8回目の講座は『雪花しぼりの手ぬぐいをつくろう』。「布をおるときは大変だったけど、染めるときはどんな柄になるのか考えながらできたので楽しかった」「違う色でもやってみたい」「自分だけの手ぬぐいができて良かった！」「きれいな柄が出来たので楽しかった！」「工夫して染めることができた」「染め方が色々あって楽しかった」などの感想があった。出来上がった手ぬぐいは、一つとして同じものがなく手作りの良さを感じられると共に、キラリと個性が光るものばかりだった。



⑨ 第9講座「みんなでお料理しよう」

7月31日（水）第9回目の講座は『みんなでお料理しよう』。「作り方が分かって包丁が上手に使えるようになったから、すごく楽しかった！」「玉ねぎを切るときなみだがでた」「先生にほめられてうれしかった」「ごはんがおいしかった」「また家でも作りたい！」などの感想があった。グループの仲間と一緒に作る楽しみ、食べたときの美味しさ、講師の先生達からの「美味しいよ」といった賞賛の言葉に子供たちの笑顔がキラキラ輝いていた。



⑩ 第10講座「そば打ち体験」

8月1日（木）第10回目の講座は『そば打ち体験』。「お蕎麦屋さんの麺がどれだけ細いか分かった」「いつも作ってくれるお店の人に感謝して食べたいです。」「そばを作るのって難しい！更科さんはすごい！」「太麺になったけど、先生においしいと言ってもらえて良かった」「大変だったけど楽しかった！」「友達と仲良く食べられて楽しかった」などの感想があった。そば粉をこねて、のばして、切つてと同じことをしても、出来たお蕎麦はそれぞれの個性が光るものだった。とっても美味しかったね！



⑪ 第11講座「命を守る着衣泳」



8月5日（月）に第11回目の講座『命を守る着衣泳』が行われた。夏休みは、川や海での水難事故が最も多いことから、実際に服を着た状態では水中でどんなに動きづらいかを体験した。子供たちは真剣な表情でお話を聞き、「もし溺れたときにどうしたら良いか」を教えていただいた。「知っている」ことと「知らない」ことでは、その結果は真逆になってしまう。今回覚えたことを常日頃から思い出し、自分の命を守ることができるように訓練しておこう。

⑫ 第12講座「夏休み学びの秘密基地」

8月19日（月）今年度最後のサマースクールとなった第12回目の講座は、中学生、高校生、大学生を講師とした『夏休み学びの秘密基地』だった。40名を越える参加者がみんなとても楽しく、賑やかに勉強していた。講師を務めた学生さん達も、自分たちが小学生であった頃を思い出したり、教えることの難しさに四苦八苦したりするなど、新鮮な感動を味わうことができた。やがて、ここで学んだ小学生達が次の講師となり、この伝統を引き継いでいってくれるよね。



(2) アンケート調査の結果（「Infinity サマースクール 2019」のまとめ）

全12講座の総受講者（講座に参加した児童）数は530人で、講師や担当者、ボランティア等の主催者側を含めると、述べ600名近い人たちが関わって開催されたことになる。

受講した児童のアンケート調査を集計すると、以下のようになった。

No	期日	講座名	対象 学年	講師	定員	申込 数	受講 者数	感想			
								◎	○	×	？
1	7/22 月	落書きしよう	全	学び部	無	116	104	—	—	—	—
2	7/23 火	English で遊ぼう	全	CT	無	54	47	41	5	1	
3	7/24 水	緑のハンギング	4～6	CT	15	15	14	13	1		
4	7/25 木	カンボジアから平和を学ぶ	4～6	教員	無	15	13	10	3		
5	7/29 月	木で遊ぼう	1～3	CT	30	30	25	17	1		2
6	7/30 火	モビールを作ろう	1～3	CT	30	30	30	—	—	—	—
7	7/30 火	飛行機を作って飛ばして遊ぼう	全	学び部	60	61	54	26	8	1	19
8	7/31 水	雪花絞りの手拭いを作ろう	4～6	CT	20	25	23	22			1
9	7/31 水	みんなでお料理しよう	1～3	CT	35	37	35	23	11		
10	8/1 木	蕎麦打ち体験	4～6	CT	30	34	34	25	3		7
11	8/5 月	命を守る着衣泳	全	外部	140	93	108	—	—	—	—
12	8/19 月	学びの秘密基地	全	卒業生	無	39	43	—	—	—	—
合計						549	530	177	32	2	29

◎凄く楽しかった ○楽しかった ×楽しなかった ？不明

時間がなくてアンケート調査ができなかった講座もあるが、全体の約84%が「凄く楽しかった」と答え、「楽しなかった」と答えた子は僅か1%にも満たなかった。

(3) 第3回 専門部会「学び部」の会議要旨

9月の第3回の部会では、「サマースクール」についての振り返りが行われ、以下のような感想や反省が出された。

- ・ 毎日がお祭りみたいで、「子供たちは幸せだなあ」と思いました。(保護者代表)
- ・ とても充実した夏休みになった。(地域代表)
- ・ 今後も子供と参加していきたい。(保護者OB)
- ・ 夏休み中のプール開放が、熱中症予防のために大幅にカットされ、学校へ行く機会がほとんどなくなっていたので、「命を守る着衣泳」は大喜びだった。(保護者代表)
- ・ 「カンボジアの話」はとても良かったので、「サマースクール」の機会だけでなく、学校の教育活動の中で全校児童が聞いた方が良かった。(講座担当者)
- ・ 「English」は、難易度を考慮して1～3年生と4～6年生で部屋を分けて行ったが、楽しく遊ぶためには上級生が下級生を支援しながらできるように、1部屋で一緒に活動した方が良かった。(担当者)
- ・ 「落書き」は後始末が大変過ぎたので、場所をプールサイドにしたりするなど、やり方は考え直した方が良い。(担当者)
- ・ 「飛行機」を「ペットボトルロケット」に変更するのであれば、準備は必要なので前年度中に計画を立てた方が良い。(担当者)

IV 研究の成果と課題

1 主な成果

(1) 子供たちの学びや育ち

平成30年度から就任された岐阜小学校運営協議会の会長は、日頃から「学校でできること、学校がやるべきことはCSでは扱わない」と口にされ、新「学び部」も同様のスタンスで、「サマースクール」の企画・運営を行った。「蕎麦打ち体験」や「飛行機づくり」等



の伝統的に続けられている講座もあるのだが、令和元年度には「体育館いっぱいに広がって全身を使って落書きしよう」や「命を守るために着衣のまま泳いでみよう」など、初めて行う講座が加わった。それらのいずれも、学校の教育課程では計画されて



いない活動内容であり、子供たちはそこでの体験から多くのことを学ぶことができている。ただし、子供たちが選ぶ講座は、授業をはじめとする学校での学習活動で興味・関心を持ったものが多く、「サマースクール」(ものづくりや体験活動)に参加して、CTのもつ専門的な知識・技能によって、子供たちの学習意欲や学びの質が、深まったり補完されたりしていることも分かった。

子供たちや保護者の感想からは、「夏休み(長期休業期間中)だからこそできる体験」、「地域にみえる“その道のエキスパート”から直接手解きをいただける経験」から、新鮮な驚きや感動を味わうことができたことを窺い知ることができる。さらに、「将来、大工さんになりたい」や「これからは、ボランティアをどんどんやっていきたい」などの感想もあり、「キャリア教育」としても有意義な取組であったと言える。

(2) 持続可能な「地域創造型」の学校

保護者OBという世代の積極的な関わりによって、マンネリ化を防ぐことに繋がるような大胆で斬新なアイデアも生まれ、これまでにはなかった新たな講座も開かれるようになった。また、計画・準備から当日の運営、事後の振り返りに至るまでの間、現役のPTA役員を含めた小学生の保護者が、「子育て」について、保護者OBという先輩に相談をしたり、様々な



助言を聞いたりする機会にもなった。そこに、地域の高齢の皆さんが加わり、「祖父母として孫の面倒を見るためには…」などの意見交換や情報交流をする場面も、自然発生的に見られるようになった。

C Sを組織するとき、地域の各種団体代表者とP T A役員という充て職的なメンバー構成になりがちである。しかし、岐阜小C Sは元P T A役員といった保護者O B世代が加わることで、大きな活性化が図られることとなった。子供たちを介し、「サマースクール」に関わったスタッフの一人一人が、楽しみながら活動する姿が多く見られて「学び部」の掲げた「遊ぼう。学ぼう！学校へ行こう！」という目標を達成することができたと言える。ここには、一貫して「学校の先生には頼らない」という「教職員の働き方改革」への配慮があったことも申し添えておきたい。

さらに、「学びの秘密基地」という講座は「夏休みまでの学習で分からなかったところを一気に解消！」と題し、「基礎問題から難問まで、普段先生に聞きにくいこともドンドンどうぞ！」と呼びかけ、岐阜小学校を卒業した中学生、高校生、大学生のボランティアが、子供たちの学習をサポートするという内容で行われている。中には、私立中学校進学のための受験勉強に参加する子もいて、まさに「学校では扱わない学習」も対象とした活動になっている。この講座以外にも「サマースクール」には、中学生ボランティアがたくさん参加している。岐阜小C Sで多くのC Tのお世話になった卒業生が、今度は「自分たちにできること」としてボランティアに参加する仕組みができているのである。



2 今後の課題

令和元年度の「サマースクール」を、最も象徴しているのが「体育館いっぱい広がって全身を使って落書きしよう」の講座と言える。年度末の「学び部」の会議では、「子供たちが伸び伸びと取り組み、学校の授業では絶対にできない活動だったので、とても良かった。」という反省が出されていた。しかし、この講座終了時の様子を見て運営協議会会長が、苦笑交じりに漏らした一言は「まさに地獄絵図やな」だった。直後の振り返りでも、「後始末が大変過ぎたのでやり方は考え直した方が良い」という反省だった。

この講座をはじめ、全ての講座が子供たちにとって「至れり尽くせり」のお膳立てと、スタッフ（大人）による後片付けで成立していたと言える。「低学年と高学年を分けて行ったが、上級生が下級生を支援しながらできるように一緒に活動した方が良かった」という反省の出た講座もあったのだが、「サマースクール」を受講する子供たちの動きや役割を整理する必要があると感じている。子供たちの中に「小学生の間は施しを受ける側」という意識が、あるような気がしてならない。「子供たちのためにしてやれること」のみを考えるだけでなく、「子供たちが何をすれば成



長できるか」や「サマースクールに参加する子供たちに期待する動き」を考えていくことが不可欠である。「学校の先生に頼らない」姿勢は大変有り難いのだが、「サマースクール」をはじめとするCSの活動も含め、岐阜小学校の子供たちに「つきたい力」や「願う姿」を共有し、主体的・能動的に取り組む児童の育成に努めていきたい。

V おわりに

開校13年目となる令和2年度は「県都の中核校として更なる高みを目指そう！」と、決意を新たにしていたところであった。しかし、地域に「開かれた学校」を特長に掲げ、学校の教育活動を実践してきた本校にとって、「閉ざさなければならない」本当に残念な状況になってしまったのである。6月から始まった令和2年度は“特別な”1年となった。ハイタッチや握手等のスキンシップのみならず、心身ともに触れ合いに溢れる、岐阜小学校らしい教育活動ができなくなった。CS先進校として、CTと共に学び合ったりする「ふるさと学習」にも大きな制限が加わることになった。

そんな中、6月の「学校運営協議会」と「専門部会」で、令和2年度の岐阜小学校CS事業についての検討を行った。結論としては、「サマースクール」を含めて恒例イベントは諦める方向でまとまった。7月の第2回「学校運営協議会」で、今年度のCS事業について話し合い、学校からは「コロナ禍で“特別な”令和2年度は、専門部ごとに学校に集まって活動することより、岐阜小CS（全体）として『校外学習』の見守りや援助等のサポート（協力）を中心とした活動をお願いしたい。」と伝え、委員の了承をいただいた。また、学識経験者として委員になっていただいている大学の先生方からは「実際の図書館の工夫や『PTAがつくる岐阜小学校のページ』サイトに上がった動画等を観て、岐阜小学校の頑張りを心強く思うとともに、例年にはない“コロナ禍だからこそこのアイデア”もあって、大きな成長を感じる。」と、お褒めの言葉もいただいた。

しかし、本来であれば、CTと活動したりCTへの発信をしたりする中で、問い返しや切り返しを受けても、根拠を明らかにしながら堂々と受け答えをすることができるようになってきた子供たちが、CTのもつ専門的な知識・技能によって、更に「学びの質」を高める令和2年度となるはずであった。また、多くのCTが、学習サポーター、ボランティア・スタッフとして「地域の学校に貢献できた」「自分が学校教育に役立っている」とやりがいを感じ、これまで以上に学校や地域への愛情や自信を高めていただく予定であった。「子どもたちから元気をもたらしている」という声をお寄せいただいた高齢のCTには、その経験によって幸福感をもち、心身ともに健康な生活を過ごしてもらえると信じていた今年度である。

これらの進化・発展は、来年度以降に花が開くよう、令和2年度はじっくりと力を蓄えていきたい。

